

婦人画報

最新情報はこちら!
FUJINGAHO
114 YEARS & BEYOND
fujingaho.jp

連載「レンズを通して」
高円宮妃久子殿下

10

October 2019
No.1395

日本が誇る建築文化を味わう

名建築に

泊まる

「婦人画報」に遺してくれた珠玉のフレーズ

樹木希林さんの言葉

秋祭り！祭りごはん

「俵屋旅館」「万平ホテル」
「奈良ホテル」などの老舗から、
新規お目見えのモダン建築まで、
一度は泊まりたい、日本各地の
名建築の宿とホテル41軒

旬の果実を瓶詰めに
コンフィチュール・レシピ

石清水八幡宮

祈りのかたち、供花神饌

もうひとつの「女たちの名靴」

100歳佳人のつくりかた



Magazine Cloud
電子版でも読めます

世界の美術界を見据えた銀座の画廊
ギャルリーためなが

50年の軌跡



1957年パリの藤田展にて。左からペトリデス(画商)、爲永夫妻、ペトリデス夫人、藤田嗣治。

1969年銀座に創業した「ギャルリーためなが」は今年50周年を迎えた。国立西洋美術館開館から十年、日本におけるヨーロッパ絵画の紹介はまだまだ限られている時代だった。今では誰でも見覚えのあるエコール・ド・パリの作家ですら、当時日本では殆ど紹介されていなかった。

派の作品ではなく、未だ最高の質を誇る作品が個人の手に入る、次の時代の作品を日本に紹介することにした。遡ること十数年、1950年代にパリで過ごす機会を得た爲永氏は、既に世界で名声を得ていた藤田嗣治をアトリエに訪ね「おやじさん」と慕う一方で、当時彗星の如く登場した若きベルナル・ビュッフェと親しくなる等、パリ画壇の真つ只中に身を置いていた経験

と伝手でエコール・ド・パリから戦後の作家までを網羅して日本に紹介することに成功した。

1971年、パリの中心地にフランス最大級を誇る画廊を開いたのも、現地で直接名品を集める上で、ヨーロッパ画壇からの信頼を得る必要を感じたからに他ならない。以降、「ギャルリーためなが」は半世紀の間、日本とフランスを拠点に芸術と文化の架け橋として貢献し続けている。現在では、フランス美術界を中心としてきた活動を欧米やアジアの世界各地に視野を広げ、現代絵画の発信地としての役割をも担っている。

今秋、そんな「ギャルリーためなが」の50周年の一年間を締めくくるにあたり、半世紀の歩みの集大成としてルノアールをはじめ、ピカソ、シャガール、藤田等、近代絵画の巨匠を網羅した珠玉作を一堂に介する「名品展」が開催される。これからまた先50年、美術界においてどのような歴史を築き上げるのか、この画廊の動向に注目し続けたいところである。

文 今井淳子

50th

50周年記念 名品展

2019年9月8日～12月8日

月～土 10:00～19:00

日・祝 11:00～17:00



藤田 嗣治

ギャルリー ためなが

東京都中央区銀座7-5-4

☎03-3573-5368

www.tamenaga.com



1970年代パリを散策する萩須高徳夫妻と爲永清司氏。萩須は亡くなる迄一貫してギャルリーためながで個展を開催。



名門プリストルホテルのすぐそばにあるパリ店にて。左から爲永清司氏、清丸氏、清嗣氏。顧客にはヨーロッパのロイヤルファミリーを始め、世界有数のコレクターが名を連ねる。

1987年にはビュッフェを来日させ、歌舞伎を描かせた。直後のビュッフェ宅で、歌舞伎作品の前でビュッフェと寛ぐ爲永清司氏。

